



季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第31号 (2018年10月)



★ミニ企画展

出雲を掘る 第7話

「小山遺跡—発見から70年—」

11月17日(土)～2月4日(月)

【入場無料】

これまで6話にわたったシリーズ「出雲を掘る」ですが、今回は小山遺跡を取りあげます。

小山遺跡は、出雲平野の中央、小山町に位置し、その北西に矢野遺跡、北東に大塚遺跡があります。この遺跡の存在が認知されたのは、70年前のことです。1948

(昭和23)年、島根師範学校(現在の島根大学教育学部)教授の山本清氏が、大塚町の南端(大塚遺跡)で土木工事の際に見つかった土師器や須恵器を『島根考古学』で報告し、「この西には矢野地区があって、出雲国風土記に見える矢野郷の一部と思われる。したがって、原始時代からこのあたりに集落が発達して以後およそ今日まで続いているものと考えられる」と指摘しました。

つまり山本氏は、見つかった土器から、大塚町に隣接する小山町や矢野町へと遺跡が広がると考えたのです。その後、1956(昭和31)年に市の文化財調査委員を



弥生～古墳時代の桃形土製品(長さ3.6cm)

していた池田満雄氏によって四絡小学校付近から同様の土器の出土が報告されました。こうして、小山遺跡や矢野遺跡は注目されるようになります。

今回は、市文化財課による小山遺跡の発掘調査の成果を中心に展示を行います。(高橋 周)

★ギャラリー展Ⅲ

「黄泉の穴」の人骨

猪目洞窟遺跡発見70年

好評開催中～12月3日(月)

猪目洞窟遺跡が発見されたのは、今からちょうど70年前の1948(昭和23)年10月のことでした。漁船置場を整備するため、海岸沿いの洞窟内に堆積している土砂を取り除く作業中、人骨や土器・木器などが大量に出土したのです。

今回、遺跡発見70年を記念して、

猪目洞窟遺跡から出土した人骨を展示しています。人骨は普段、館内の収蔵庫に保管しており、一般観覧はできませんが、見学希望の問い合わせが最も多い資料です。

この遺跡が注目を集める理由は、人骨をはじめ多様な遺物が出土したことに加え、その場所が「出雲国風土記」に記された死後の世界への入り口『黄泉の穴』にあたるのではないかと考えられているためです。『黄泉の穴』から人骨が出土したという話題は、発見当時から今にいたるまで、多くの人々の興味を惹いています。

出土した人骨は、当初十数体と報告されましたが、近年の精査で、その総数は二十体分以上あることが分かりました。一体は弥生時代のもので、その他は全て古墳時代のものでみられます。

今回はその中から残存状態の良いもの5体分を展示しています。古代の出雲に生きた人々の姿をぜひご覧ください。(石橋紘二)



1948年頃の猪目洞窟

★ギャラリー展Ⅳ

「はかりの歴史―世界とつながる島根のおもり―」

12月5日(水)～2月25日(月)

今、重さを量る道具と言えばデジタル秤。モノを置くだけで数値が表れ、誰もが簡単に重さを量れる時代になりました。しかし、40～50年前までは、天秤や棹秤を使っていました。今回の展示では、秤の歴史について、県内から出土した資料を中心に紹介します。

世界最古の秤は、7千年前の中央アジア、トルクメニスタン(カスピ海の東)から石製のおもりが出土しています。最も小さい8.6gを基準とし、2倍の17.2g、4倍の34.4g、8倍の68.8g…となるよう重さを変えてあり、おもりを使った計量システムがあったことがわかっています。

日本には、弥生時代中期頃(約2千年前)に朝鮮半島から秤が伝わりました。九州から関西で青銅や石製のおもりが出土します。中でも、大阪府亀井遺跡の石製のおもりは重要です。11点出土し、大半が円柱形です。8.7gを最小として、2倍の17.4g、4倍の34.8g、8倍

の69.6g、16倍の139.2g、32倍の278.4gと重さを変えて作られています。これは、トルクメニスタンの8.6gの基準とほぼ同じです。5千年という時の隔たり、地理的な隔たりにもかかわらず、中央アジアと、亀井遺跡のおもりの基準がほぼ一致する事実は、世界が繋がっていることを教えてくれます。

これによく似たものが、江津市の古八幡付近遺跡にあります。278.4gの円柱形で、8.7gの32倍の石製のおもりです。これも弥生時代中期頃のもので、亀井遺跡と同じ基準で作られています。残念ながら、弥生時代のおもりは出雲では確認されていませんが、当地でも天秤を使っていたと推測できます。奈良時代になると、中国・唐に倣い、「斤・両」などの単位の使用が始まります。市内の中野清水遺跡では、唐のものによく似た壺形のおもりが出土しています。遣唐使などを通じて入ってきた大陸の情報が出雲にも影響を与えたことが感じられます。そして、これらの重さの単位は、昭和まで使われてきました。秤を通して、各時代を思い量っていただければ幸いです。

(坂本豊治)

★発掘調査の現場から

「14基の横穴墓を確認―神門横穴墓群の発掘調査―」

市文化財課が実施している神門横穴墓群の発掘調査で、新たに14基の横穴墓を確認しました。

調査は、神西沖町地内、十間川の拡幅工事に伴い実施しており、調査面積は約1000㎡、調査は7月末から行っています。

表土を除去して確認したところ、横穴墓と考えられる円形の穴が14基新たに発見されました。

(下写真)

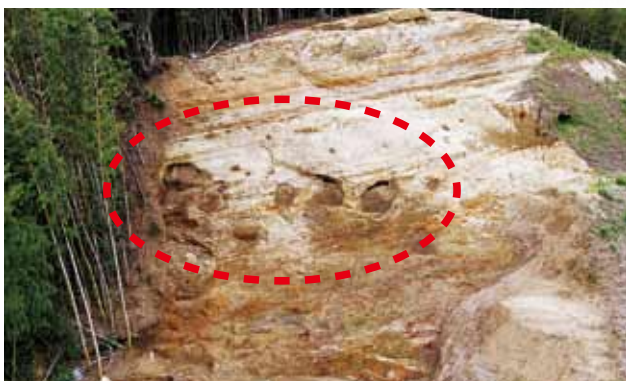


発掘現場(矢印部分が発掘現場・後ろは真幸ヶ丘公園)

神門横穴墓群は、真幸ヶ丘の丘陵(神門町・神西沖町)に12の支群を形成しており、120基以上の横穴墓が存在していることが知られています。今回発掘調査をしている第10支群では、1992(平成4)年に35基の横穴墓が調査され、須恵器・鉄刀・耳環・玉類などが出土しています。

現在、横穴墓の検出確認調査が終わり、これから横穴墓内部の調査を開始します。今後、詳しいことがわかりましたら、報告したいと思います。

(石原 聡)



横穴墓を確認した場所(円形の穴を確認)



演目「蛇切り」

(景山このみ)

また、奏樂は他団体に指導・協力を行っており、近隣の神樂継承に大きな役割を果たしています。毎年10月第2日曜には地元・火守神社の例祭で神樂を奉納されます。ぜひお近くでご覧ください。

また、奏樂は他団体に指導・協力を行っており、近隣の神樂継承に大きな役割を果たしています。毎年10月第2日曜には地元・火守神社の例祭で神樂を奉納されます。ぜひお近くでご覧ください。

・市指定無形民俗文化財
 保持者 宇那手神樂保存会
 ・2018(平成30)年 7月25日指定
 宇那手神樂は、稗原地区の宇那手町で近世から舞われてきた神樂です。

★新指定文化財紹介
 「宇那手神樂」

★第53回出雲市無形文化財発表会
 12月2日(日)

無形文化財に指定されている神樂や獅子舞など、地域の誇る伝統芸能が一堂に会してその技を披露します。今年、新たに市文化財に指定された、「唐川神樂」、「宇那手神樂」の上演もあります。

神話のふるさと「出雲」に息づく技と心をご体感ください。



獅子舞



盆踊り



神樂

- 時間 10時～15時30分
- 場所 大社文化プレイス
うらら館(大社支所隣)
- 入場料 当日 500円
前売り 400円

※10月下旬から前売券販売
 中学生以下 無料

★日本遺産
 日が沈む聖地出雲の文化財
 (第5回)

日本遺産「日が沈む聖地出雲」を彩る構成文化財紹介第5弾！
 前号に引き続き、日御碕神社に注目します。今回は、神社に伝わる宝物を紹介いたします。

①白糸威鎧

国宝指定されている鎧兜の優品。鎌倉時代末～室町時代初めに製作され、日御碕神社に寄進されました。江戸時代には源頼朝の寄進といわれ、老中松平定信が編集した古宝物図録集『集古十種』にも登場します。1805(文化2)年に松江藩主松平治郷(不昧)の命によって修理され、現在は東京国立博物館が保管。出雲文化伝承館には復元品(左写真)が展示されています。



白糸威鎧(復元)

②出雲国風土記(日御碕神社本)
 奈良時代、日本各国の風土・伝承を集めた風土記が編纂されます。



『出雲国風土記』日御碕神社本 (県指定文化財)

『出雲国風土記』は733(天平5)年に完成し、ほぼ完全な内容が今に伝わる唯一の風土記です。

『出雲国風土記』の写本は170冊以上残されており、日御碕神社本は1634(寛永11)年、御三家筆頭の尾張藩主徳川義直が寄進した一冊。3代將軍徳川家光が日御碕神社の社殿造営を命ずる1年前のことです。

本の奥書には、「全国66巻の風土記のうち、今残るのは出雲国風土記のみ。これは出雲が神国ゆえである。よって、この国の靈物であるため、日御碕神社に寄進する。」という記載があります。

2つの社宝は、いずれも將軍家や大名と関係が深かった日御碕神社の栄華をうかがわせる貴重な文化財です。

(景山このみ)

★企画展・講座などのご案内

▼ミニ企画展

出雲を掘る 第7話

「小山遺跡―発見から70年―」

11月17日(土)～2月4日(月)

▼ギャラリー展Ⅲ

「黄泉の穴」の人骨

～猪目洞窟遺跡発見70年～

好評開催中～12月3日(月)

●関連講座

「古人骨からみた出雲に生きた人々」

10月13日(土)14時～

【講師】舟橋京子氏

(九州大学大学院講師)

●ギャラリートーク

11月17日(土)10時～

▼ギャラリー展Ⅳ

「はかりの歴史―世界と」

つながる島根のおもりに

12月5日(水)～2月25日(月)

●関連講座

「日本のはかり」(仮)

12月22日(土)14時～

【講師】森本 晋氏

(奈良文化財研究所企画調整部長)

「世界のはかり」(仮)

1月12日(土)14時～

【講師】堀 暁氏

(田和山サポートクラブ副会長・元オリエント博物館研究部長)

▼館長講座

第2回

「出雲国分寺を読み解く」

11月24日(土)14時～

第3回

「石見国分寺を読み解く」

1月26日(土)14時～

★イベントのご案内

▼よすみちゃんおりがみ教室

ハロウィンバージョン

10月14日(日) 10時～14時

カボチャのお化けや魔女を折り紙でつくり、デコレーションしてかわいいパネルをつくります。

●募集人数 各回10名

※事前申込みが必要です。

▼ぐるっとサイクル

古代出雲の王墓めぐりライド

10月20日(土) 9時30分～

出雲に築かれた王墓を自転車めぐります。

今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳・上塩冶地蔵山古墳の石室内の見学もあります。

●募集人数 15名

●参加費 300円

※事前申込みが必要です。

締切 10月17日(水)

★館長古来夢

今年、日本の博物館の歴史を講義する機会がありました。

いまでも毎年、奈良で開催される「正倉院展」は、奈良時代に東大寺大仏の開眼会に使われた道具類や、大仏建立を発願した聖武天皇遺愛の品々が並び、人々を魅了します。収集して保存する、という博物館のわが国での原点は一三〇〇年前の正倉院にあります。

室町時代の足利義政は京都の東山に別荘を建て(その中の建物の一つが「銀閣」、中国美術などの宝物を集めました。この宝物「東山御物」の全貌は、イラスト入り目録『君台観左右帳記』によって知ることができですが、美術品を書院にどのように飾るのか、という「しつらえ」まで示した点で「ハウツー」本の先駆けともいえます。

江戸時代には、薬用や食用になる動植物・鉱物の研究が進みました。蘭学や西洋医学が大きな刺激となり、自然科学が発展すると、収集される資料の範囲が広がっていきま

げたのは、社会と産業の近代化に博物館が果たす大きな役割を理解していたからに他なりません。

それを国家事業として推進したのは、NHK「西郷どん」にも登場する「二蔵」こと大久保利通と薩摩藩主島津家に繋がる町田久成でした。東京のJ.R上野駅西側には、美術館や動物園や博物館などの文教施設が集積しています。ここはかつて徳川將軍家の菩提寺・東叡山寛永寺の境内地でしたが、戊辰戦争によって焼け野原となりました。それを現在の姿に変えたのが大久保と町田でした。

日本の博物館は、千年以上にわたる歴史を内に秘めているのだ、と改めて実感させてもらった加計学園での講義でした。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2018年10月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料/無料
- 開館時間/9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日/火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

